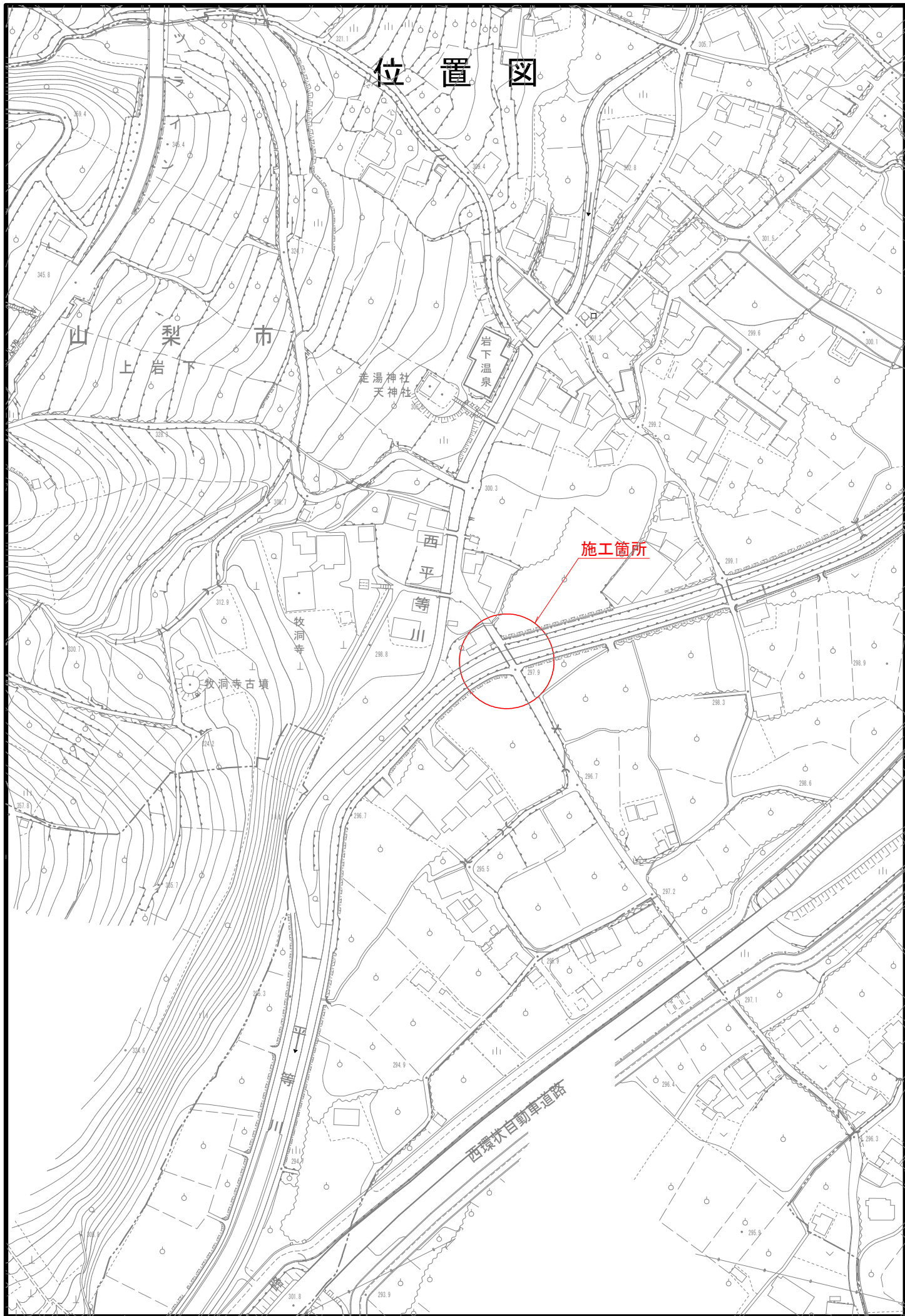


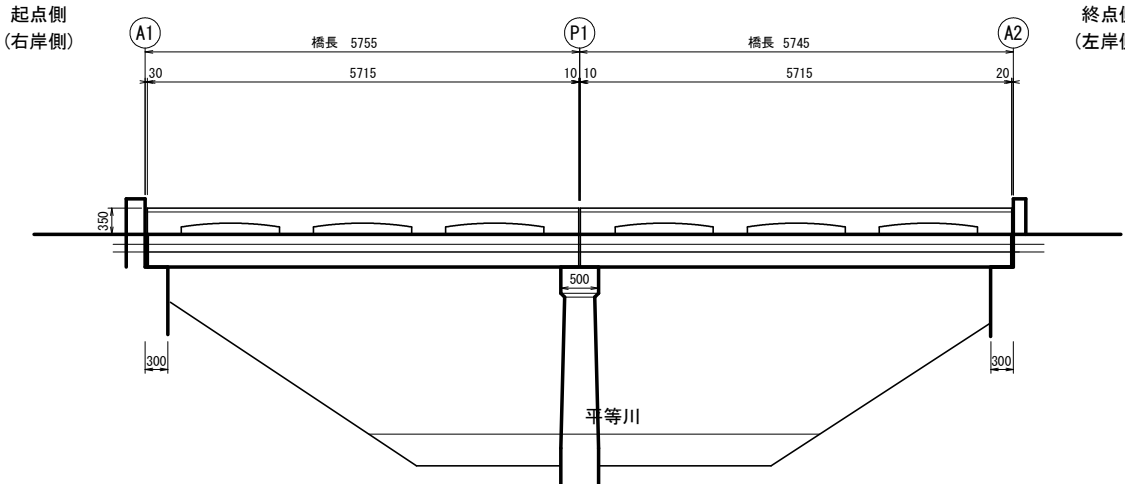
市道14093号線窪橋補修工事

# 位置図

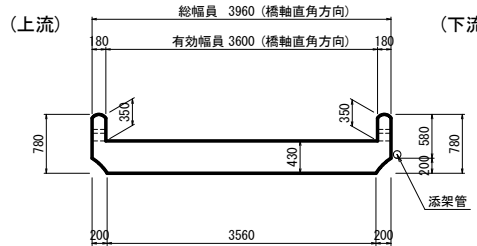


## 窪橋 橋梁一般図（復元図）

側 面 図 S=1:5

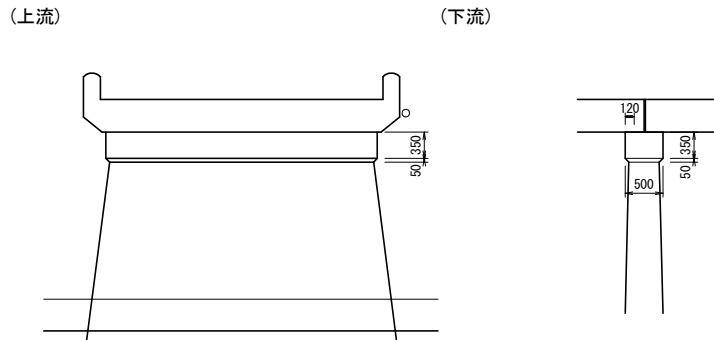


上部工断面図 S=1:50

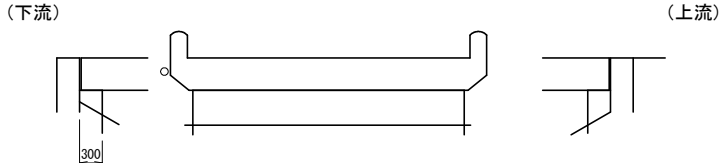


下部工断面图 S=1:50

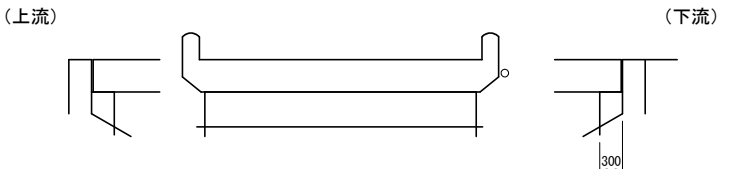
P1 橋脚



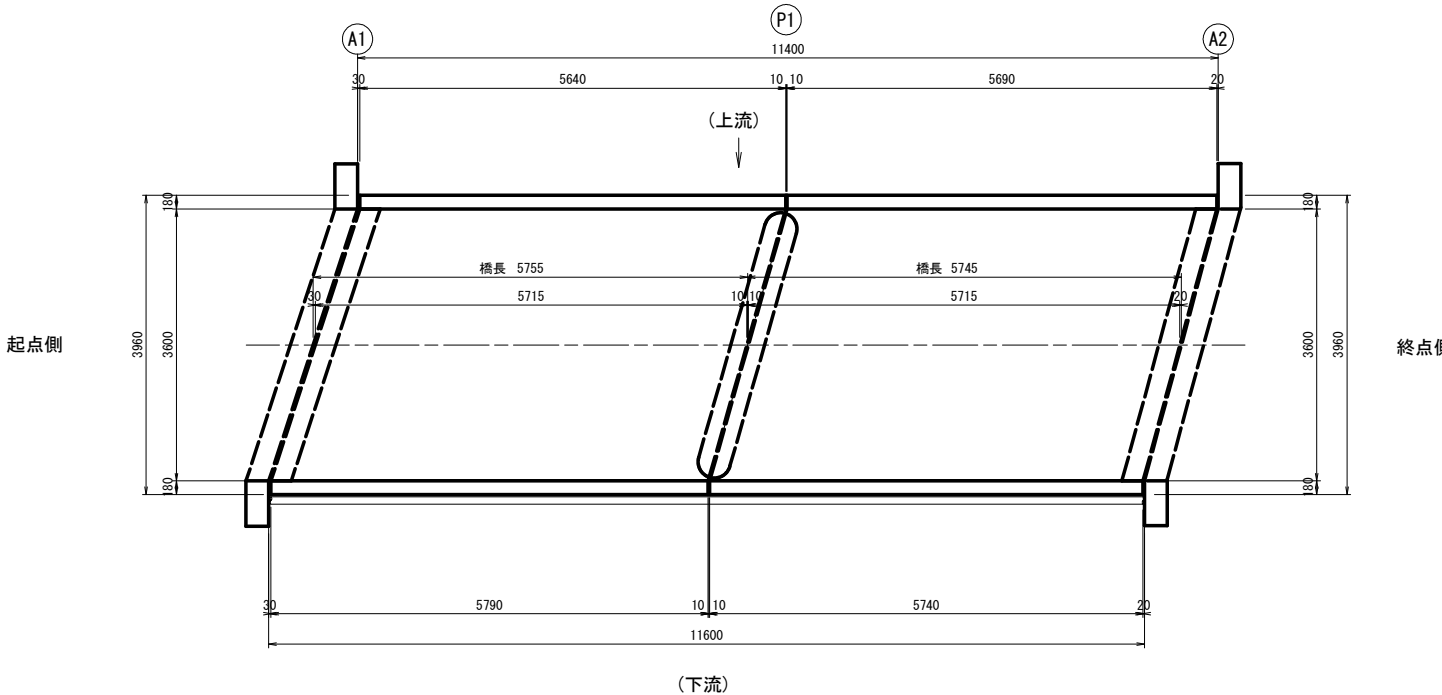
A1橋



A2橋



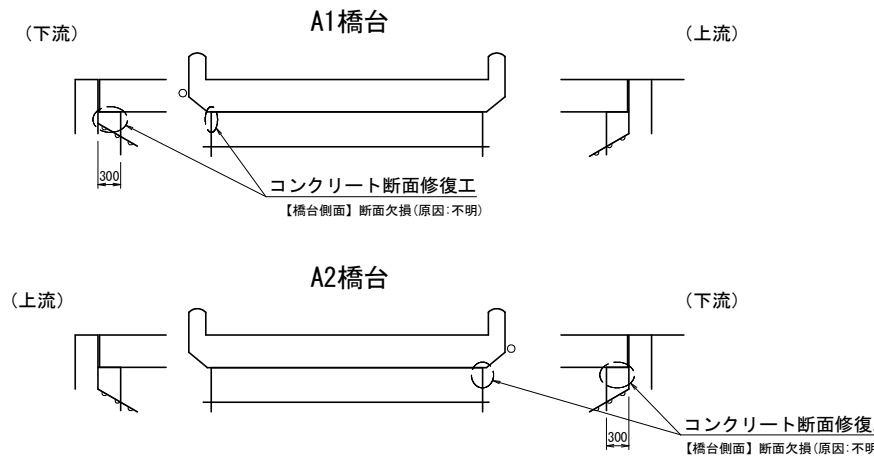
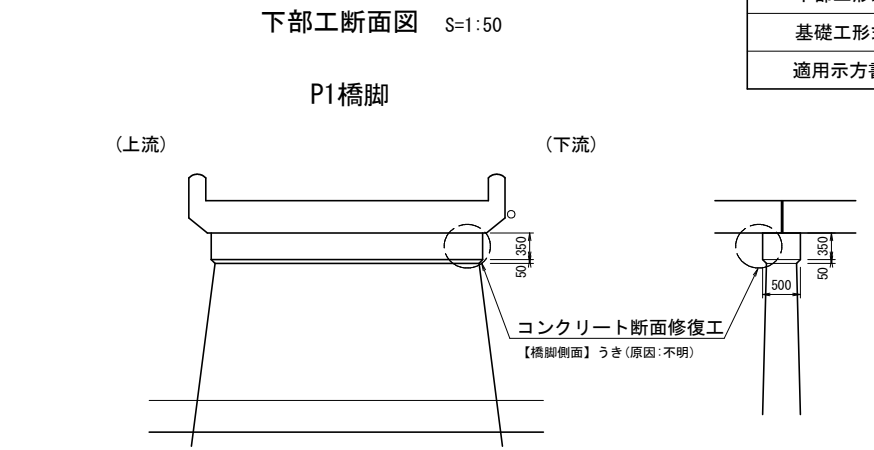
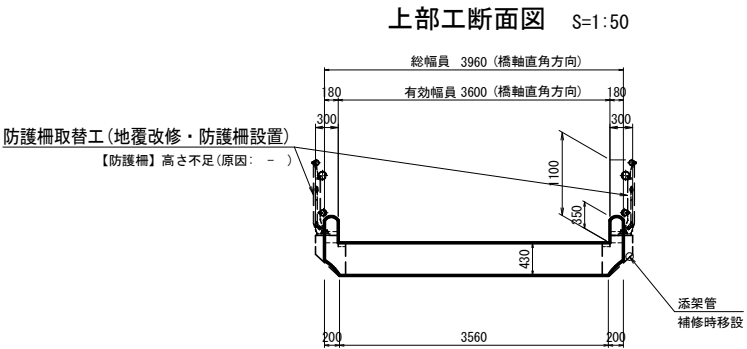
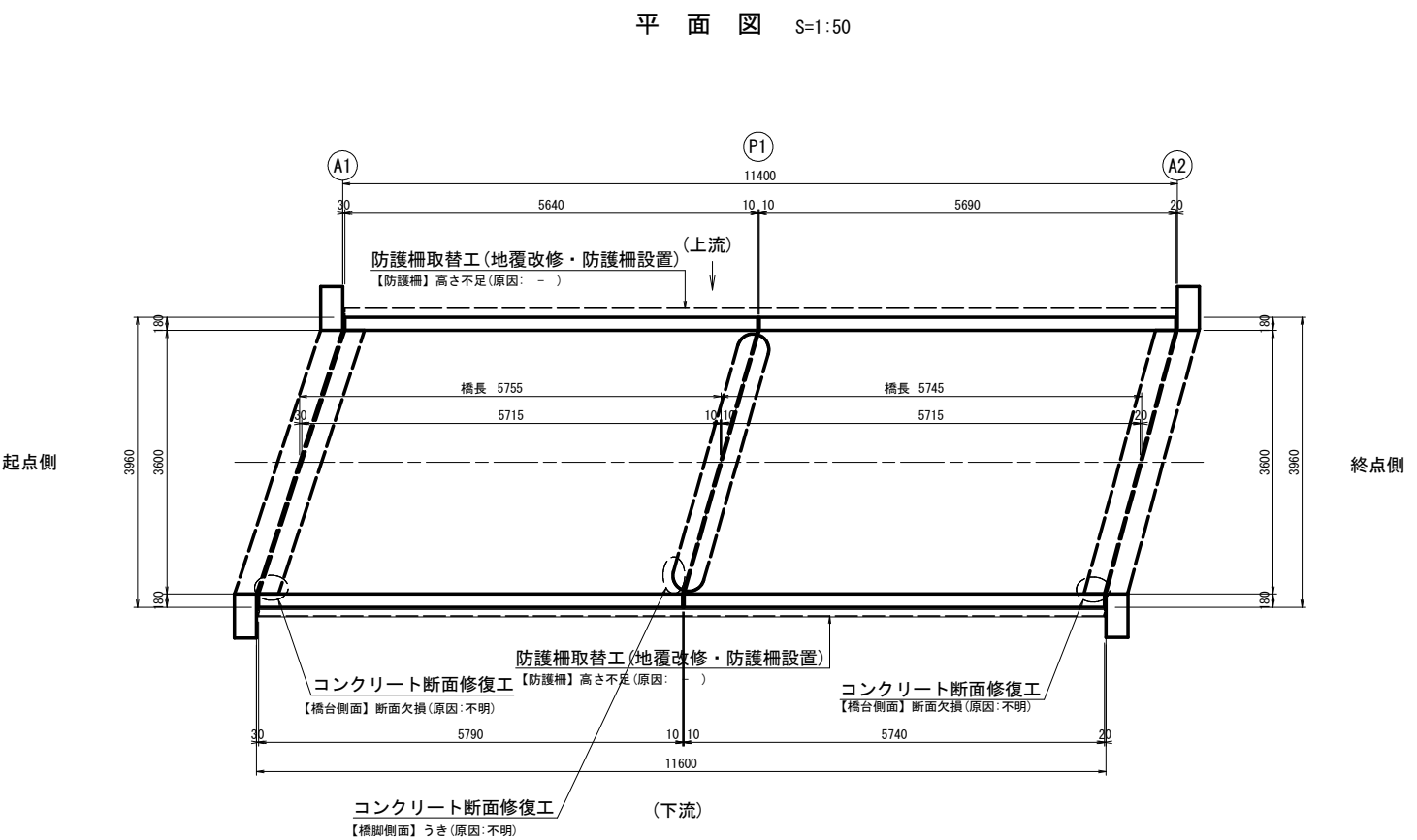
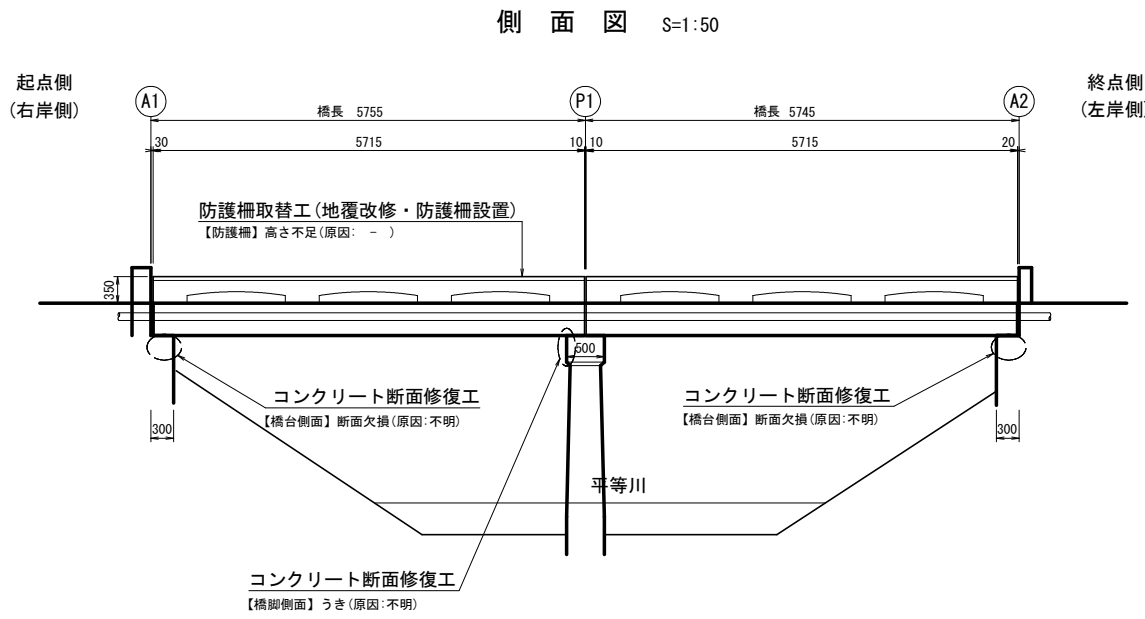
平面图 S=1:5



工 事 名	市道14093号線窪橋補修工事		
図 面 名	窪橋 橋梁一般図（復元図）		
作成年月日	令和7年5月		
縮 尺	図 示	図面番号	1
会 社 名			
事業者名	山 梨 市		

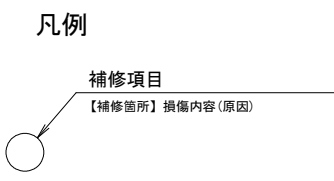
窪橋 補修一般図

橋 梁 諸 元	
橋 長	5.755m+5.745m
支 間 長	5.48m+5.47m
幅員構成	0.18m+3.60m+0.18m=3.96m(補修前) 0.30m+3.60m+0.30m=4.20m(補修後)
道路規格	3 種 5 級 相当
交差河川	一級河川 富士川水系 平等川
斜 角	A1:72° , P1:74° , A2:74°
横断勾配	不明
縦断勾配	不明
設計活荷重	不明
支 承	不明
上部工形式	単純RC床版橋×2連
下部工形式	重力式橋台・逆T式橋脚(想定)
基礎工形式	不明
適用示方書	不明



窪橋 補修項目

構造部位	対象部材	項 目	備 考
下部工	P1橋脚	コンクリート断面修復工	左官工法
	A1, A2橋台	コンクリート断面修復工	左官工法
路上	防護柵	防護柵取替工(地覆改修・防護柵設置)	歩行者自転車用柵兼用車両用防護柵C種 H=1.1m

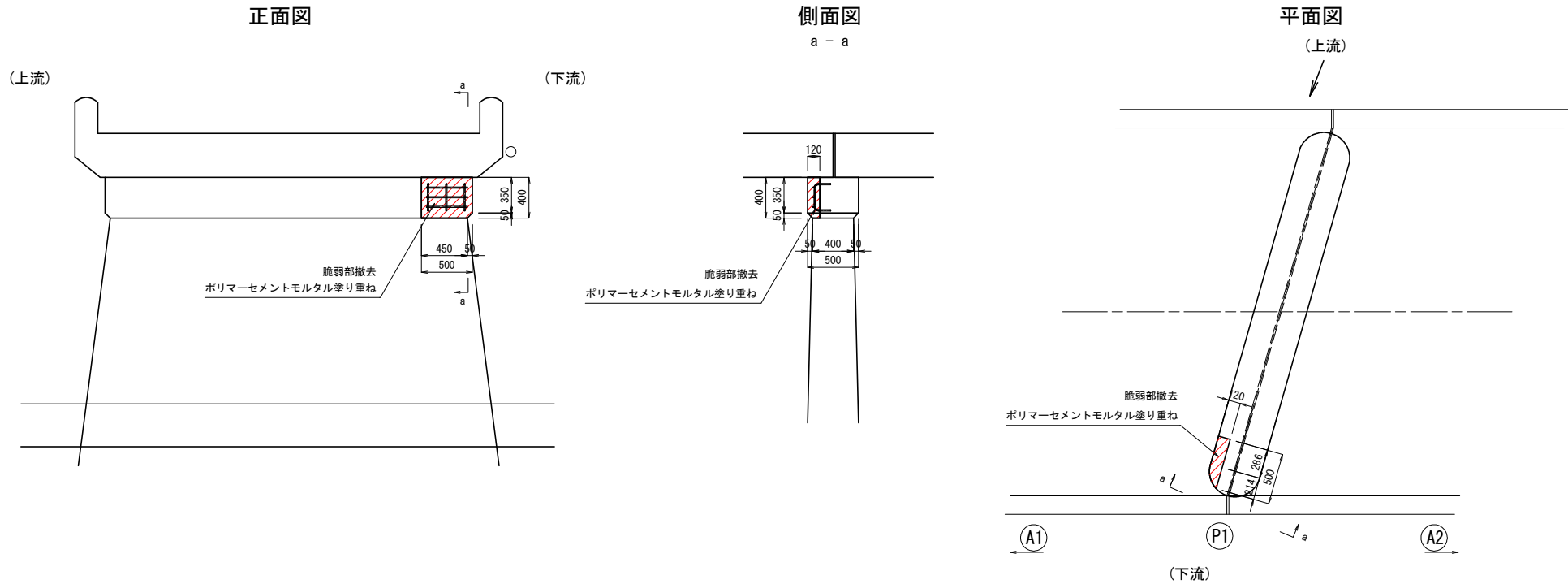


工 事 名	市道14093号線窪橋補修工事		
図 面 名	窪橋 補修一般図		
作成年月日	令和7年5月		
縮 尺	図 示	図面番号	2
会 社 名			
事業者名	山 梨 市		

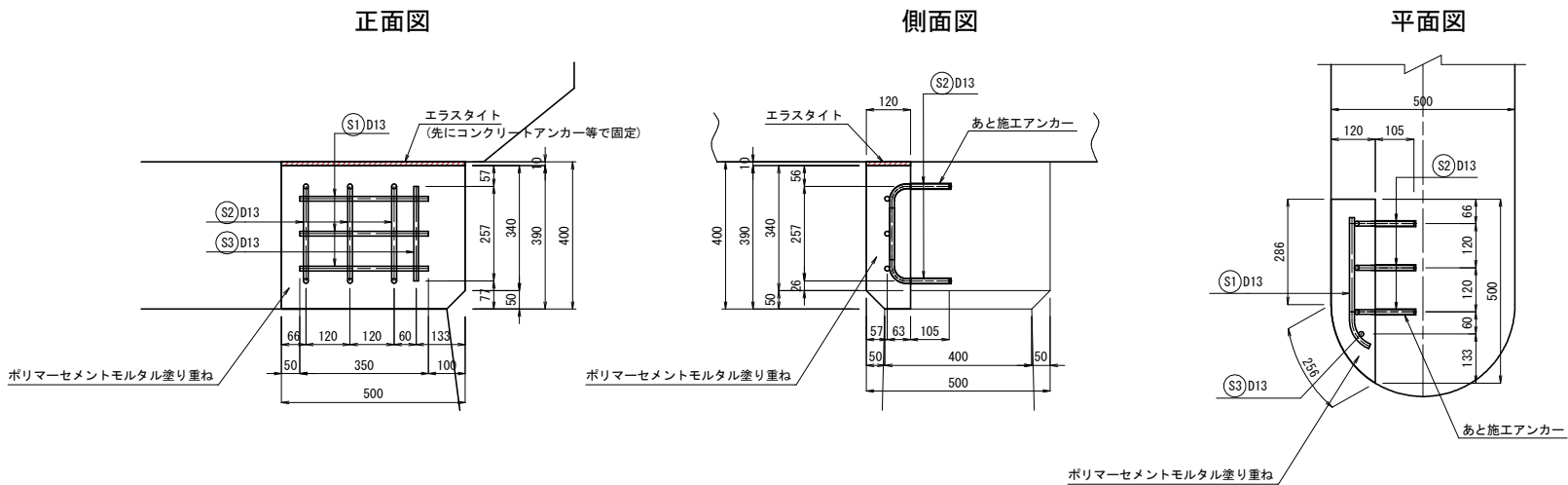
# 窪橋 下部工断面修復工（１）

## P1橋脚

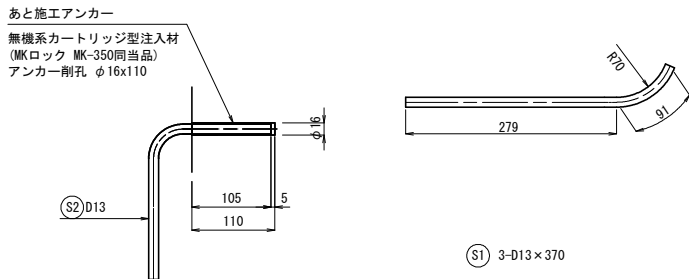
補修概要図 S=1:30



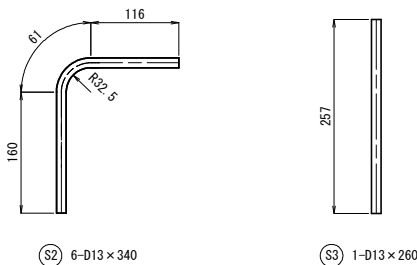
補修形状詳細図 S=1:10



アンカー一定着図 S=1:5



鉄筋加工図 S=1:5

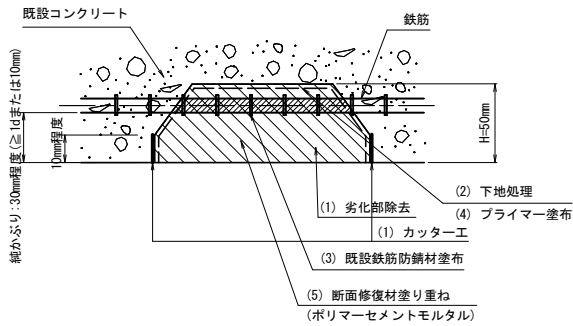


鉄筋表

符号	径	長さ(mm)	本数	単位重量(kg/m)	重量(kg)／本	重量(kg)	摘要
S1	D13	370	3	0.995	0.368	1	
S2	D13	340	6	0.995	0.338	2	
S3	D13	260	1	0.995	0.259	0.3	
D13(SD345)					合計	3.3 kg	

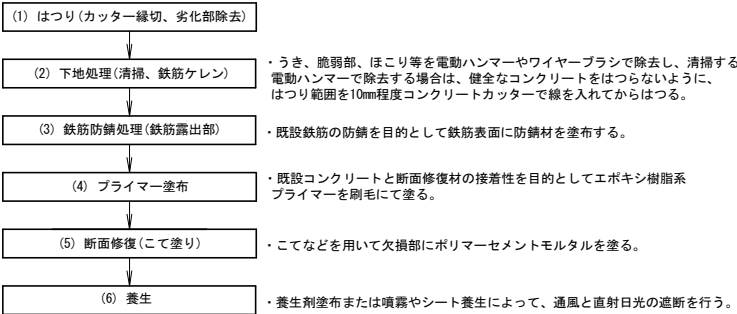
断面修復工標準図

(左官工法)



注) 鉄筋露出部は、鉄筋の裏側まではずり、防錆処理を施すこと。  
注) カッター工は、鉄筋かぶりの少ない範囲の鉄筋を損傷させないこと。  
注) 断面修復時のポリマーセメントモルタルのかぶりは最小1dまたは10mm以上確保すること。

断面修復工施工手順



注) 1. はつり範囲の周囲にはカッターで縁切を行い、健全なコンクリートをはつらないよう注意して行うこと。  
また、カッター施工時には多量の粉塵が発生するため、集塵機等を用いた飛散防止対策を行うこと。  
2. はつり殻が飛散しないように作業範囲をシート等で覆って作業すること。  
3. 清掃の際には、表面のレイタンス、ほこり、油分、塩分等を完全に除去すること。  
4. 鉄筋の防錆処理は、鉄筋腐食が生じる前にケレン後速やかに行うこと。  
5. プライマーは、施工面に均質に塗布すること。  
6. 断面修復にあたっては、既設との付着を得るための1層目および各層間の施工には十分注意して行うこと。  
7. 表面仕上げ後の養生は、温度、風、直射日光等を判断し、十分な強度を発現するまで確実に実施すること。  
8. 鉄筋露出部では、鉄筋の裏側まで確実にはずり取ること。  
9. 施工数量は現地を再確認のうえ決定すること。

注記)

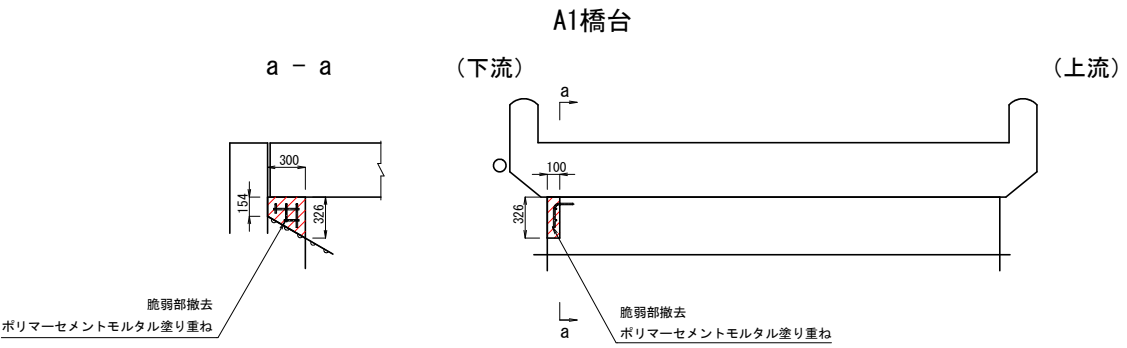
- 本図面は既往資料及び現地計測結果を元に作成しているが、一部推定の箇所もあることから、使用の際は注意すること。
- 補修工事に先立って、必ず現地計測を行い、現地状況を確認すること。
- 必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で、施工を行うこと。  
また、必要に応じて変更等の見直しを行うこと。

工事名	市道14093号線窪橋補修工事		
図面名	窪橋 下部工断面修復工（１）		
作成年月日	令和7年5月		
縮尺	図示	図面番号	3
会社名			
事業者名	山梨市		

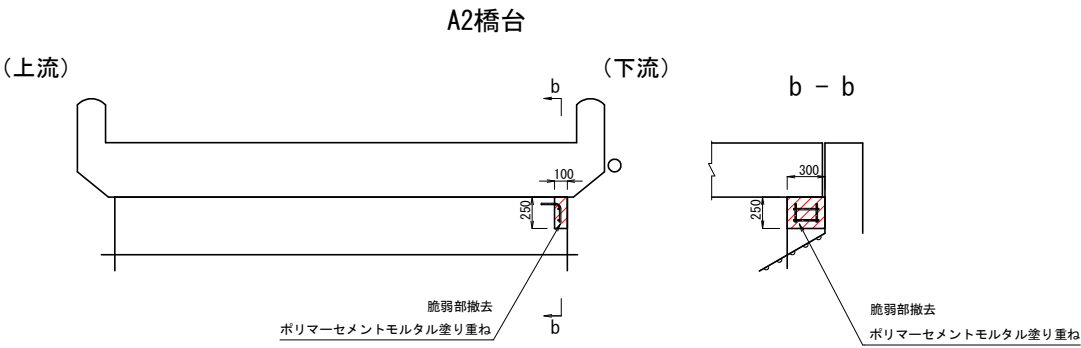
# 窪橋 下部工断面修復工（２）

## A1、A2橋台

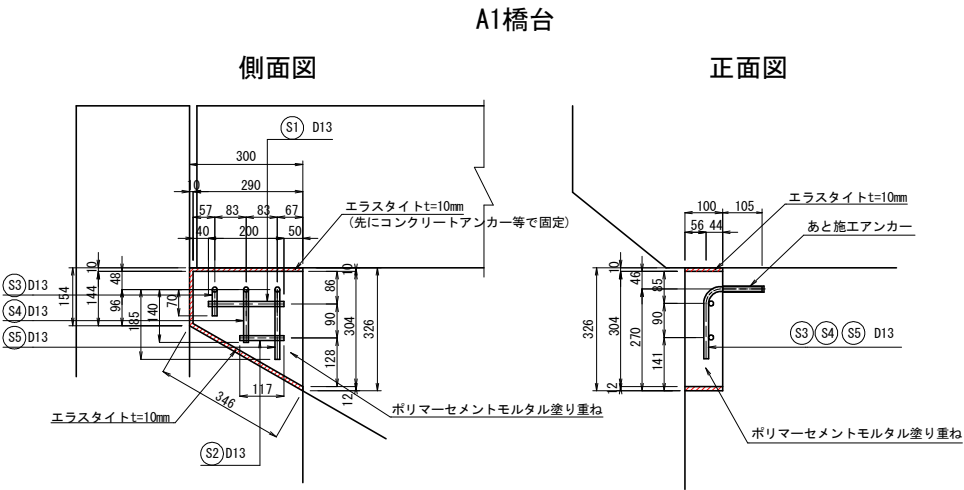
補修概要図 S=1:30



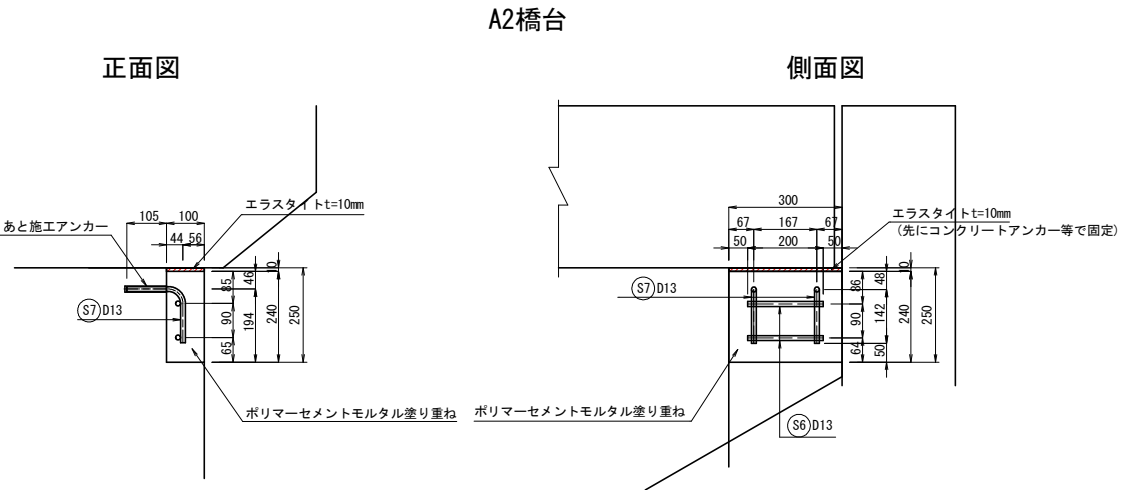
補修概要図 S=1:30



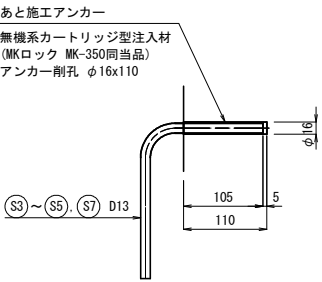
補修形状詳細図 S=1:10



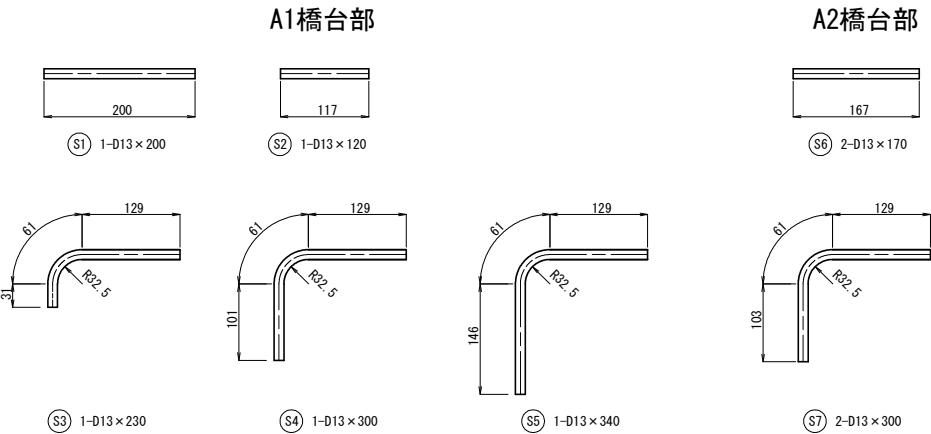
補修形状詳細図 S=1:10



アンカー定着図 S=1:5



鉄筋加工図 S=1:5



鉄筋表

符 号	径	長さ(mm)	本 数	単位重量 (kg/m)	重量(kg)／本	重 量(kg)	摘 要
S1	D13	200	1	0.995	0.199	0.2	—
S2	D13	120	1	0.995	0.119	0.1	—
S3	D13	230	1	0.995	0.229	0.2	┐
S4	D13	300	1	0.995	0.299	0.3	┐
S5	D13	340	1	0.995	0.338	0.3	┐
S6	D13	170	2	0.995	0.169	0.3	—
S7	D13	300	2	0.995	0.299	0.6	┐
D13(SD345)					合計	2 kg	

注記)

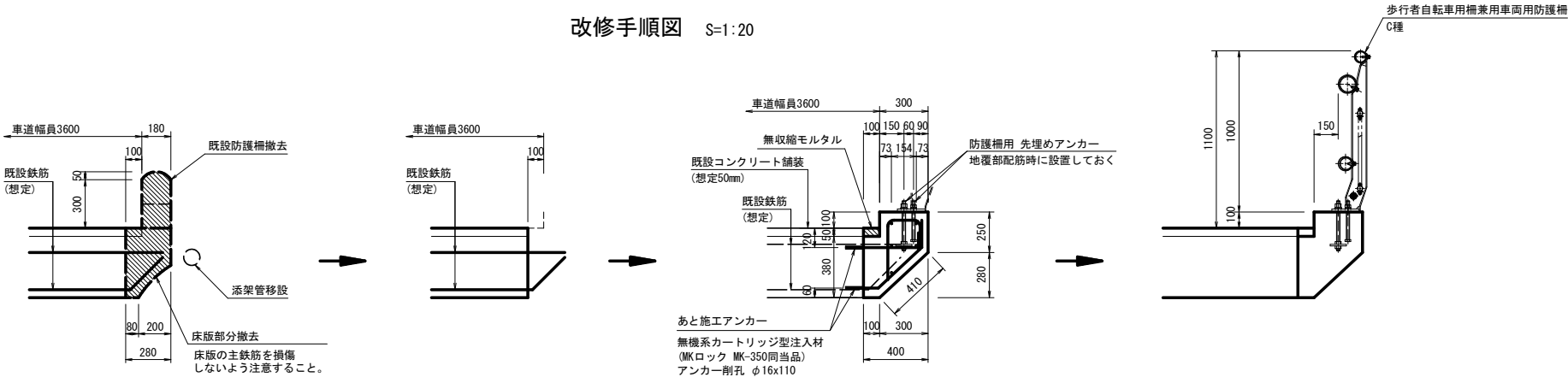
- 本図面は既往資料及び現地計測結果を元に作成しているが、一部推定の箇所もあることから、使用の際は注意すること。
- 補修工事に先立って、必ず現地計測を行い、現地状況を確認すること。
- 必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で、施工を行うこと。  
また、必要に応じて変更等の見直しを行うこと。

工 事 名	市道14093号線窪橋補修工事		
図 面 名	窪橋 下部工断面修復工（２）		
作成年月日	令和7年5月		
縮 尺	図 示	図面番号	4
会 社 名			
事業者名	山 梨 市		

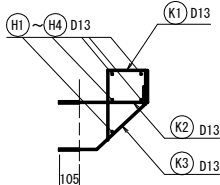
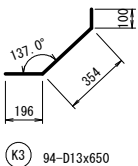
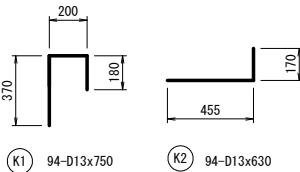
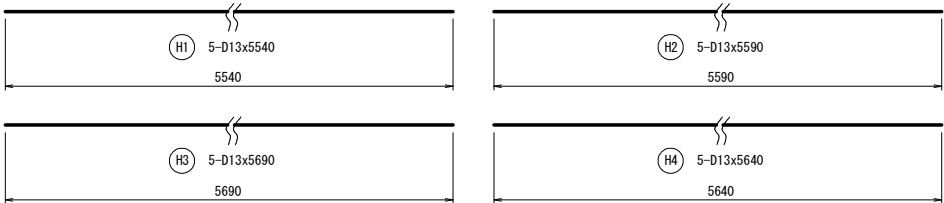
窪橋 防護柵補修図（１）

地覆部改修工

改修手順図 S=1:20



鉄筋加工図 S=1:20

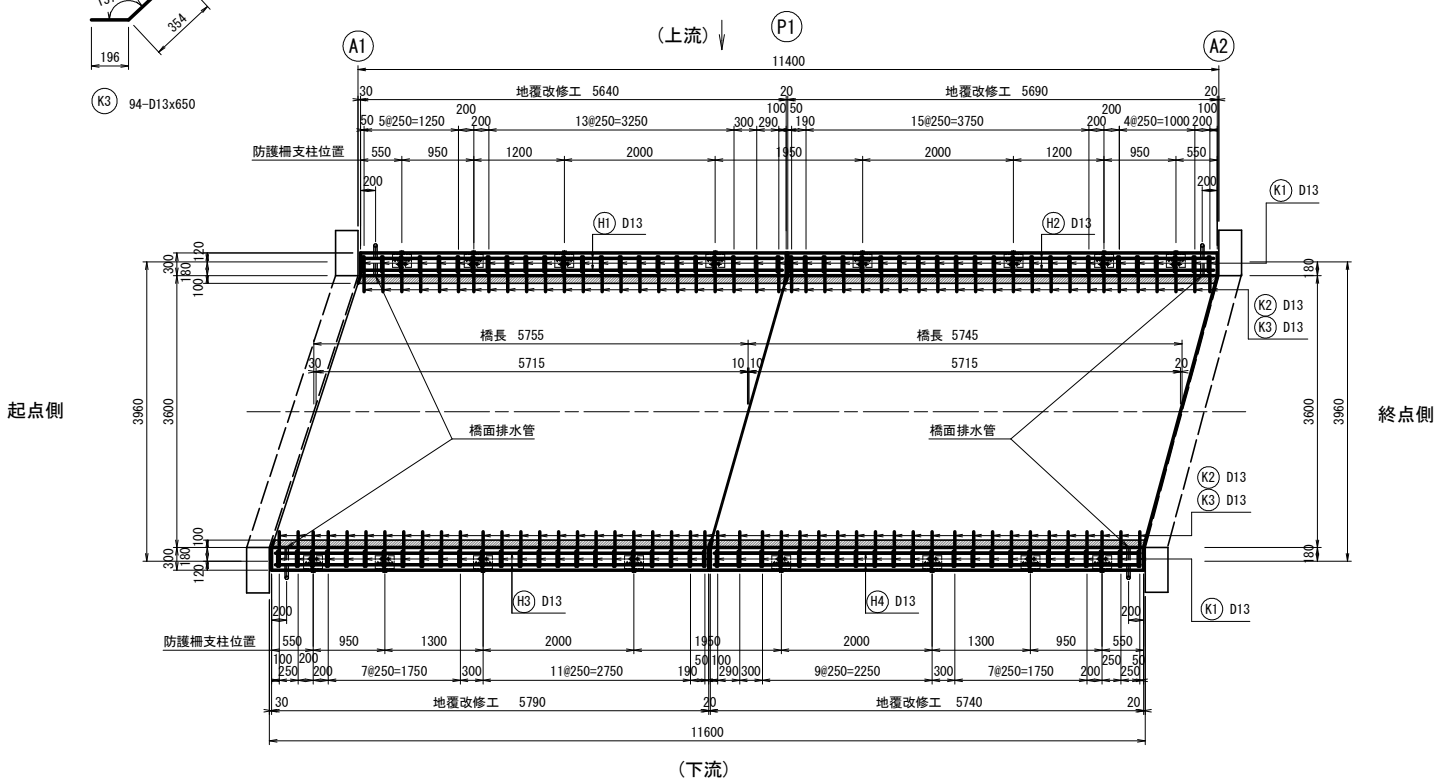


鉄筋表

記 号	径	長 さ	本 数	単位重量	1本当重量	重 量	摘 要
H1	D13	5540	5	0.995	5.51	28	
H2	D13	5590	5	0.995	5.56	28	
H3	D13	5690	5	0.995	5.66	28	
H4	D13	5640	5	0.995	5.61	28	
K1	D13	750	94	0.995	0.75	71	
K2	D13	630	94	0.995	0.63	59	
K3	D13	650	94	0.995	0.65	61	
合 計						303 kg	
D13 (SD345)						303 kg	

1式当り

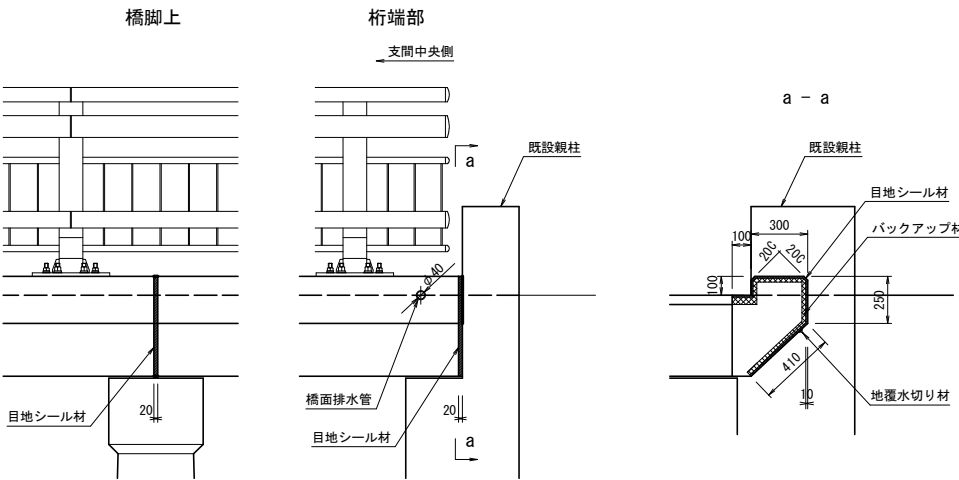
平 面 図 S=1:50



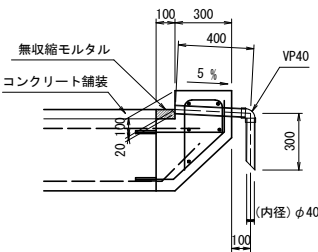
地覆改修工 数量表

項 目	単 位	数 量	摘 要
コンクリート取壊し体積	m3	3.2	鉄筋コンクリート
コンクリート体積 $\sigma_{ck}=24N/mm^2$	m3	3.54	
型枠面積	m2	20.80	
無収縮モルタル	m3	0.11	
アンカー削孔 $\phi 16 \times 110$	本	188	床版側面
あと施工アンカー注入材	リットル	1.88	MKロック MK-350同当品
目地シール材（弾性シーリング材）	リットル	0.78	
橋面排水管 VP40	m	2.80	エルボ含む
地覆水切り材	m	22.86	ウォーターカッター同等品

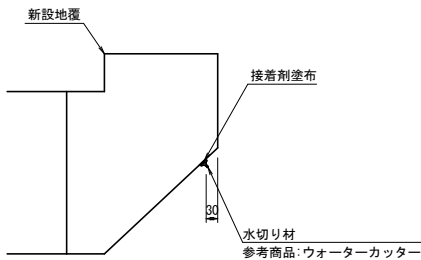
地覆遊間部 止水詳細図 S=1:20



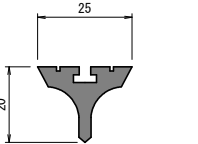
橋面排水管詳細図 S=1:20



地覆水切り材取付図 S=1:10



水切り形状図 S=1:1



参考商品:ウォーターカッター

- 注記)
- 新設コンクリート強度は $\sigma_{ck}=24N/mm^2$ 以上とする。
  - 鉄筋の材質はSD345とする。
  - 各寸法は、施工前に現場にて確認を行い製作・施工を行うこと。
  - アンカー削孔の際は、既設鉄筋を破断せぬよう、配筋調査を行うこと。尚、アンカー削孔位置に既設鉄筋があたる場合は、位置をずらして、削孔すること。
  - ひび割れ防止に関しては、現場養生を十分行うとともに、膨張材等の混和材を使用する。

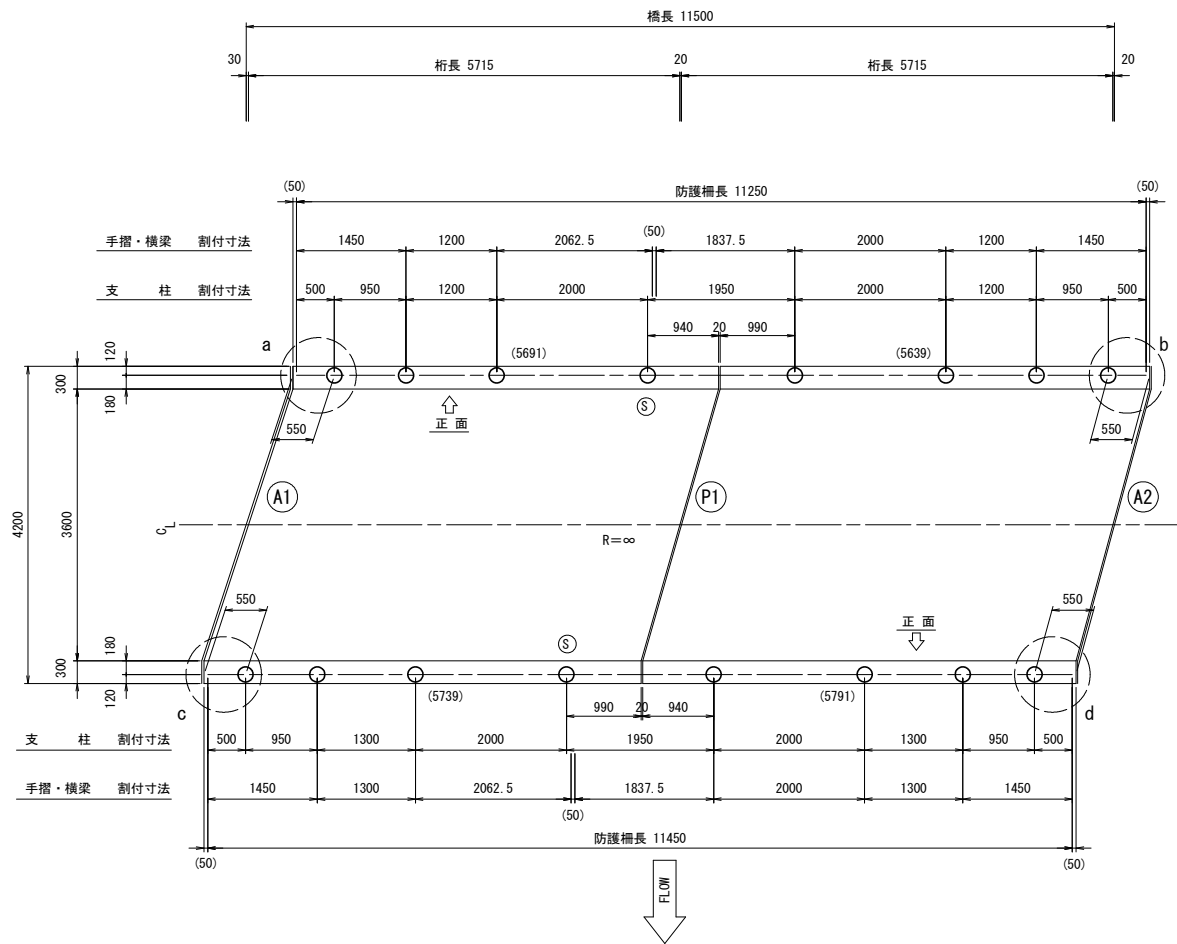
工 事 名	市道14093号線窪橋補修工事		
図 面 名	窪川 防護柵補修工（１）		
作成年月日	令和7年5月		
縮 尺	図 示	図面番号	6
会 社 名			
事業者名	山 梨 市		



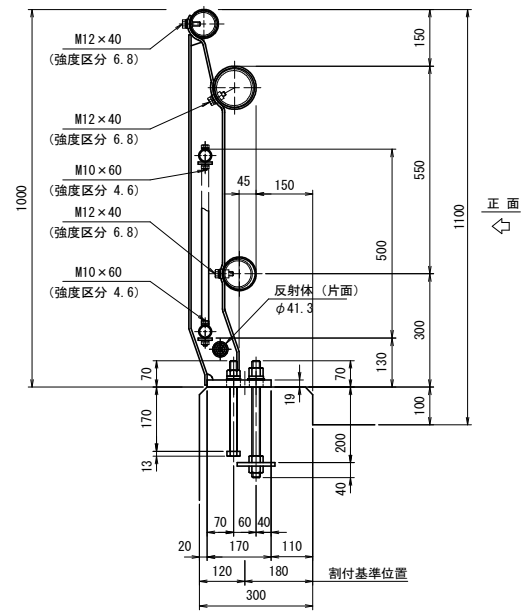
窪橋 防護柵補修図（2）  
歩行者自転車兼用車両防護柵C種

割付図 S=1:50

注）・防護柵長は全てアンカー中心寒長で示す。  
・㊟印は、伸縮部を示す。  
・防護柵材料は、全てLEVEL品手配とする。



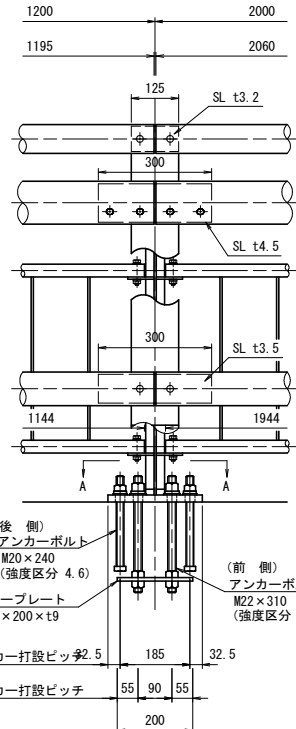
支柱図 S=1:10



※ アンカーボルト・アンカープレートは、  
地覆鉄筋の干渉がない事を確認すること。

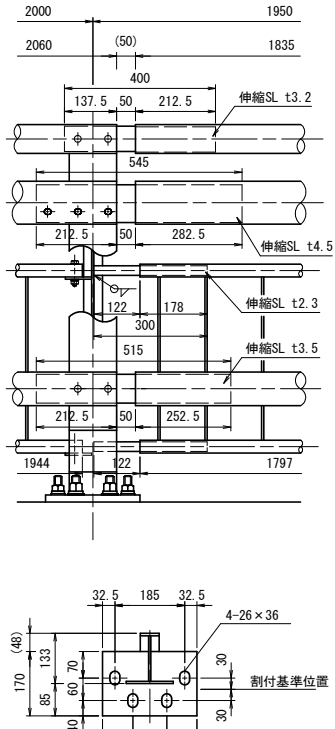
連結部

\* SLは、スリーブを示す。



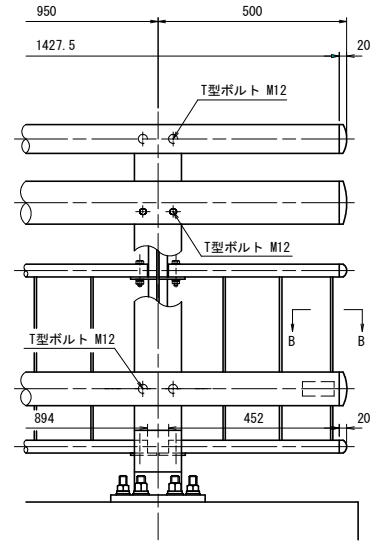
伸縮部

\* SLは、スリーブを示す。

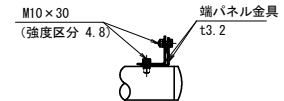


A 矢視図

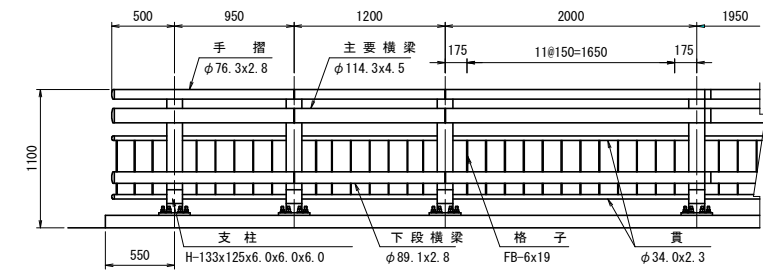
端末部



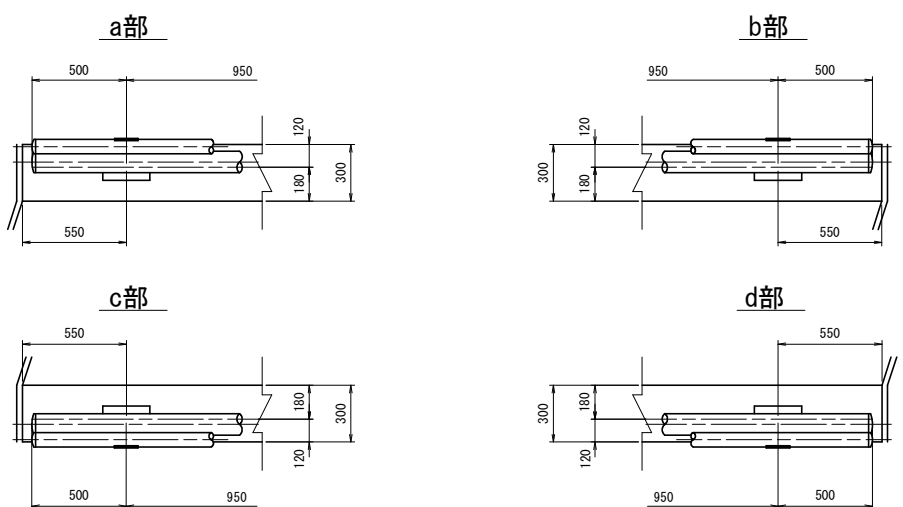
B 矢視図



正面展開図 S=1:30



端末詳細図 S=1:20



特記仕様

- \* 支柱、主要横梁、下段横梁、手摺、貫、格子は、溶融亜鉛めっき（HDZT49）＋静電粉体塗装（平均50μm以上）とする。
- \* スリーブは、亜鉛めっき＋静電粉体塗装（平均50μm以上）とする。
- \* 取付ボルト類は、溶融亜鉛めっき仕上げとする。
- \* 反射体はスワレフレックス（ベース：黒、反射体：白）とする。
- \* エキストラ加工は、無いものとする。

工事名	市道14093号線窪橋補修工事		
図面名	窪橋 防護柵補修工（2）		
作成年月日	令和7年5月		
縮尺	図示	図面番号	7
会社名			
事業者名	山梨市		